



# 浦添市学校施設長寿命化計画(第1回改定) 〈概要版〉

## 序章 はじめに

### 計画の位置付けと目的

本計画は「浦添市公共施設等総合管理計画」の個別計画として位置付け、学校施設の計画的な修繕、改築スケジュールを策定することにより、将来負担コストの軽減・平準化を図りながら、児童生徒が安全・安心に学校施設を利用できるような教育環境の整備を図ることを目的とします。

#### ■計画期間

令和3年度から令和42年度  
(概ね5年毎に内容の見直しを検討)

#### ■対象施設

小学校 (11校)	浦添小, 仲西小, 神森小, 浦城小, 牧港小, 当山小, 内間小, 港川小, 宮城小, 沢岬小, 前田小
中学校 (5校)	浦添中, 仲西中, 神森中, 港川中, 浦西中



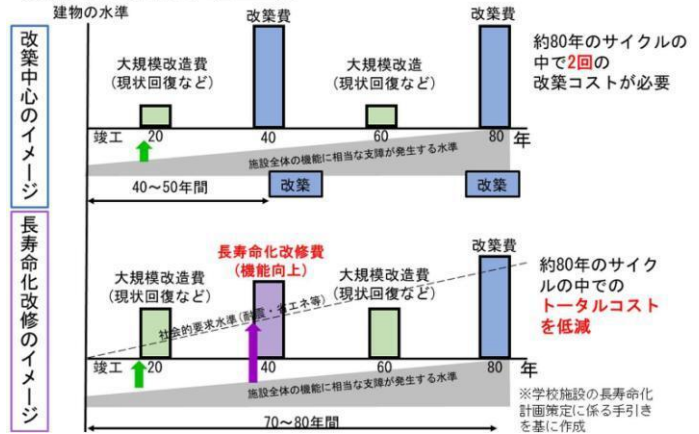
## 長寿命化の概要

#### ■長寿命化とは

長寿命化とは、建物を将来にわたって長く使い続けるため、耐用年数を延ばすことです。

これまで40年程度で改築してきた建物を、長寿命化改修などを行いながら80年程度まで使用します。

#### ○長寿命化改修のイメージ



#### ■改築と長寿命化改修のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
改築	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計や施工上の制約が少ない(高層化や地下階の拡大が容易に可能、設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規などについては最新のものに対応が容易)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物が大量に発生する</li> <li>既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる</li> <li>工事に時間と費用がかかる</li> </ul>
長寿命化改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>工期の短縮ができる</li> <li>工事費の縮減ができる</li> <li>廃棄物が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計及び施工上の制約が多い(柱・耐力壁などの既存躯体を利用するため間取りの変更に制約が生じる場合がある。計画には十分な検討が必要)</li> </ul>

# 第1章 学校施設の現状と課題

## ■建設年度状況

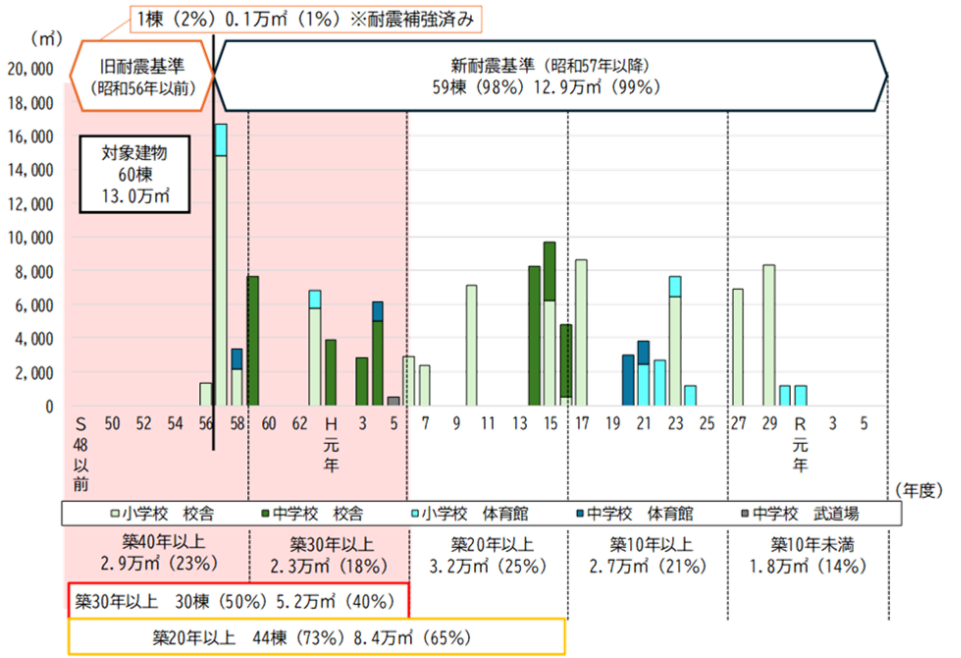
昭和57年以降に建設された新耐震基準の学校施設全体の99%となっています。

旧耐震基準の建物は1棟残っていますが、文部科学省が示す耐震化の対象となる学校校舎及び体育館(200㎡以下の建物は除く)は耐震補強や建替え工事により、全て対策を行っており、本市の学校施設は全てが新耐震基準に適合しています。

しかし、築30年以上が経過する建物は全体の50%を占め、そのうち昭和57年に建設された建物は約17,000㎡あります。

これらの建物の整備時期が重複することを避けるため、学校別の対策内容や整備時期について、財政状況を鑑みて歳出の平準化や整備手法の検討をする必要があります。

## ■学校施設の築年別整備状況



## ■学校施設の現状と課題のまとめ

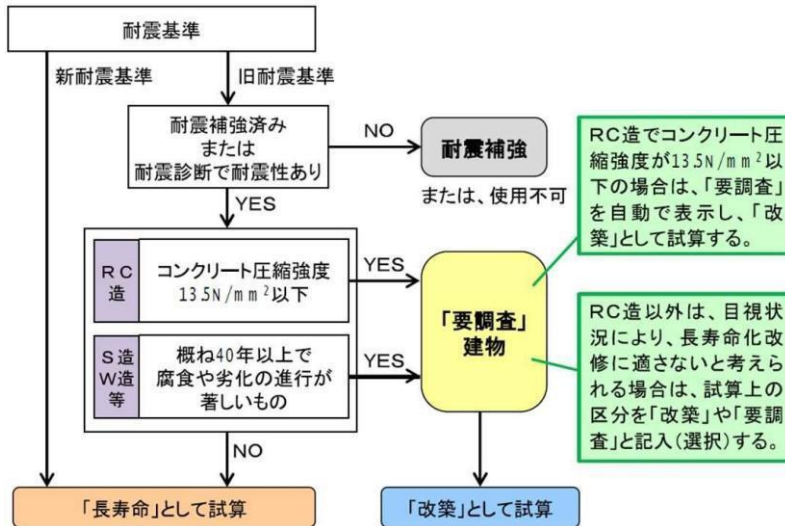
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦添市の人口は2025年に人口のピークを迎え、その後は減少に転じ2070年には約93,300人になると推計されています。</li> <li>年少人口は2020年の約19,700人から減少を続け、2070年には4割あまり少ない約11,700人になる見通しです。</li> </ul>
児童生徒数と学級数	<p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全児童数は減少傾向であり、最近5年間で約620人減少し令和7年では7,222人となっています。</li> <li>特別支援学級に通う児童数は増加傾向(最近5年間で約1.3倍)です。</li> <li>学校規模となる学級数は増加傾向で余裕教室がなく、不足している学校もあります。</li> </ul> <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒数は増加傾向でしたが、令和7年では3,676人(5年前よりは40人減少)となっています。</li> <li>特別支援学級に通う生徒数は増加傾向(最近5年間で約1.6倍)です。</li> <li>学校規模となる学級数は一定数で推移しています。</li> </ul>
施設整備量	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧耐震基準の建物は耐震改修等がなされており、耐震性に問題のある施設はありません。</li> <li>大規模校が9校、過大規模校が7校となっています。</li> <li>特別支援教学級の増加に伴い教室数が不足している学校は6校(R7年度)です。</li> <li>校庭および体育館については市民開放が行われており、利用頻度も高い状況です。</li> <li>地域連携室は市内全16校のうち、4小学校に設置されています。</li> </ul>
維持管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育予算は市全体予算約17%(約113億円)で推移しています。また、また、教育予算の中で小中学校費は約21億円程度で推移していますが、その割合は減少傾向に、令和6年度には約19%です。</li> <li>光熱費は年々増加しています。</li> </ul>
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防犯・事故に対する安全性」「設備の老朽化」「バリアフリー等に配慮した環境」「防災拠点としての機能」が優先的な改善を検討すべき項目となります。</li> <li>優先的に取り組むべき項目は「学ぶことに集中できる充実した学習空間の整備」「ICT教育を推進するための施設整備や情報機器の充実」「防災・防犯に優れた施設の整備」です。</li> </ul>

## 第2章 学校施設の老朽化状況の把握

### 躯体の健全性調査

新耐震基準であれば「長寿命化」として判定し、LCCを試算します。旧耐震であれば、耐震診断により耐震補強の必要性を判断し、鉄筋コンクリート造の場合は、コンクリートの圧縮強度により「長寿命化」または「改築」と判定し、LCCを試算します。具体的な事業実施の際には躯体の詳細な調査に加えて経済性や教育機能上等の観点から総合的に「長寿命化」または「改築」と判断します。

#### ■長寿命化の判定フロー



#### ■調査結果

##### ○コンクリート強度

全体的に健全です。建設後30年以上経過している建物でも高い強度を保持していることから、強度低下について経過年数の影響は小さいと考えられます。

##### ○中性化深さ

調査を実施した4棟については、理論値と同等か理論値以下の中性化深さとなっています。外壁改修により計画的な保全を行えば中性化の進行を抑制することができます。

### 躯体以外の劣化状況調査

現地調査(屋上・屋根、内装、外壁、機械設備、電気設備、外構)、ヒアリング調査(各教頭)を実施し、建物の劣化状況を把握し、評価や課題を検討します。劣化状況は6つの場所の項目別に4段階(A~D)で評価を行います。

#### ■調査結果

##### ○相対的に健全度の低い学校

- ・小学校では、宮城小学校、沢岷小学校、前田小学校の3校の健全度が他校に比べて低くなっています。
- ・中学校では、港川中学校、浦西中学校、仲西中学校の3校の健全度が他校に比べて低くなっています。

##### ○全体傾向

- ・「屋上・屋根」「外壁」の劣化が進行している棟が多くなっています。「屋上・屋根」「外壁」の劣化が進行することで漏水の原因となり、「内装」の劣化が進行します。さらに、屋根瓦が葺かれている施設については、屋根瓦の剥離や剥落に伴い、直下部通行者の安全面に影響するため、優先的に「屋上・屋根」「外壁」の補修を行うことが望まれます。
- ・築年数が経過している棟は、「内装」の劣化が進行しています。「内装」については一部の施設では、部分的な応急修繕が施されていることで、前回調査に比較して劣化度が改善されている傾向が見られます。
- ・コンクリートの爆裂や部材等の落下の危険度が高い場合は応急修繕を行う必要があります。
- ・ブロック塀の傾きや劣化が見られる場合は、適切に安全確認を行い、危険度・緊急度の高いものから順次対策を行う必要があります。
- ・屋外トイレやプールなどの小規模の棟について、躯体の劣化や設備配管の錆による腐食が見られる場合は、使用者の安全面と施設としての機能面を再確認した上で、応急修繕や計画的な対策を行う必要があります。

### 第3章 学校施設の目指すべき姿

安全性	<p>予防保全による計画的な管理による児童生徒の生活を守る安全で安心な学校施設</p> <p>学校施設は子どもたちの生活を守り、安心して学習に取り組める場所であるとともに、地域の交流拠点や災害時の避難場所としての機能を有しています。経年劣化により老朽化する施設を予防保全により維持管理することで、子どもたちや地域住民にとっての安全な施設を目指します。</p>
快適性	<p>誰でも快適に学ぶことに集中できる快適な学校施設</p> <p>教育環境に求められる機能は年々多様化が進んでいます。誰でも使いやすいユニバーサルデザインを取り入れた施設整備を進めるとともに、学習に集中できる快適な教室整備、またICT教育など多様な授業に対応できる教室や設備の整備を進めます。また老朽化が進むプールについては、周辺類似施設との連携も含めて検討を行います。</p>
学習活動への適応性	<p>児童生徒数の変化や多様な学習活動に適応する学校施設</p> <p>学習環境に求められる機能は、時代の変化により多様化してきました。子どもたちと教職員にとって良好な環境の維持・向上を図りながら、少人数学級やICT教育など多様な学習活動のニーズに対応できる学校施設等を目指します。</p>
環境への適応性	<p>省エネ設備など環境負荷の低減に配慮した学校施設</p> <p>学校施設は地域の身近な公共施設であり、その施設規模も大きいことから、地球温暖化防止や循環型社会への移行に対して取り組む必要があります。施設の更新時や改修時には省エネルギー化や省資源化を推進するとともに、各施設の条件や費用対効果を勘案しながら新エネルギーの導入を検討し、環境負荷の低減に配慮した学校施設等を目指します。</p>
地域の拠点化	<p>防災・防犯に優れた、地域の生涯学習・スポーツの拠点となる学校施設</p> <p>地域の身近な公共施設としての利点を活かした学校施設の活用が求められています。生涯学習や生涯スポーツなど地域住民の交流の場としての役割を担う施設整備を行うことで、地域コミュニティの拠点となる学校施設を目指します。</p>

### 第4章 学校施設整備等の基本的な方針と施設整備水準

#### 学校施設整備及び長寿命化等の基本的な方針

##### ■学校施設整備の基本的な方針

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ① 学校施設の保有総量の適正化       | ⑤ 地域拠点としての学校施設の整備  |
| ② 安全・安心で利用しやすい学校施設の整備 | ⑥ 快適な教育環境の整備       |
| ③ 予防保全による施設の長寿命化の推進   | ⑦ 官民連携による学校施設の維持管理 |
| ④ 学校の規模・配置の適正化        |                    |

##### ■長寿命化及び予防保全の方針

「長寿命化改修」「大規模改造（質的整備）」「予防改修」「定期更新」「応急修繕」により、持続可能な財政運営を進めながら学校施設の長寿命化を図っていきます。また、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図ります。

#### TOPIC！ 小中学校体育館等への空調整備について

近年の猛暑に伴う熱中症対策や、災害時における避難所機能の強化を目的に、全小中学校体育館への空調設備導入を推進します。

整備にあたっては、学校施設環境改善交付金や空調設備整備臨時特例交付金（令和15年度迄）等を最大限に活用し、長寿命化事業との連動や避難所としての優先度を考慮しつつ、計画的に整備を進めていきます。

※本編38頁より一部抜粋

#### TOPIC！ 学校プール施設の在り方について

「浦添市立学校のプール施設の在り方に関する基本方針（令和7年5月）」に基づき、改築等が必要になった場合において、学校プールを取り巻く状況及び市の財政状況を総合的に鑑み、民間施設を含む外部委託を活用して水泳授業の指導を委託することを第一に考えることとして判断していきます。

※本編38頁より一部抜粋

## 第5章 長寿命化の実施計画

### 改築及び長寿命化改修等の優先順位付け

長寿命化の実施計画において、改築及び長寿命化改修等は建築年を基本として、目標使用期間まで安全に使用できるように改修周期に合わせて定期的に行います。なお、現地調査の結果である健全度の低いものを総合的に判断して決めます。

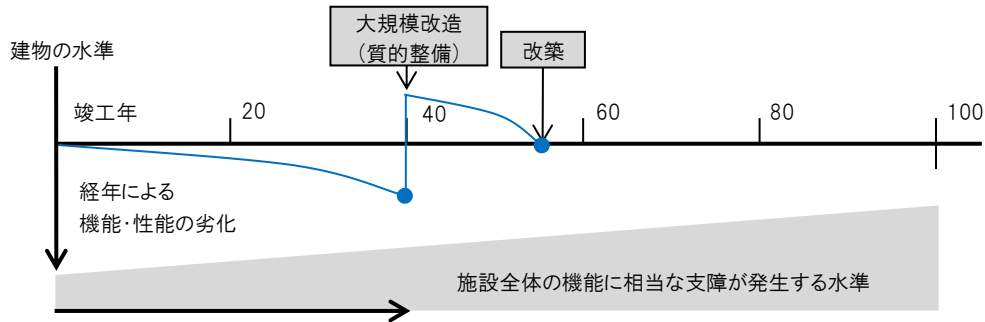
### 長寿命化のコスト見通しと効果

学校施設の目標使用期間及び現状の整備状況に応じてア～エまでカテゴリを設定します。目標使用期間は、建築年の古い建物の改築時期に合わせて建替えを実施するため、目標使用期間が短いものに合わせて設定します。カテゴリは築年数に応じて改修事業を設定しています。

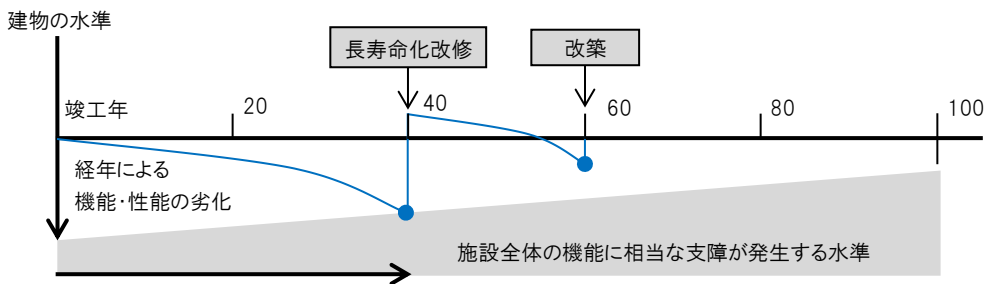
#### ■改修周期

事業名	実施周期
予防改修	20年
大規模改造 (質的整備)	概ね20年 (状況を鑑みて実施)
長寿命化改修	40年
改築	55～80年

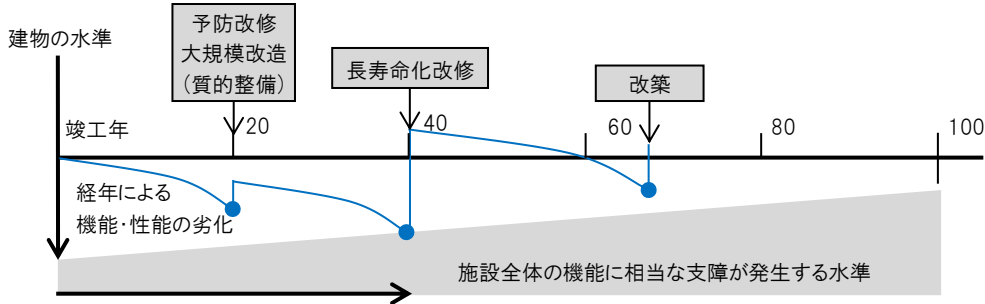
#### ア【1981年以前に建設された学校施設】目標使用期間：55年程度



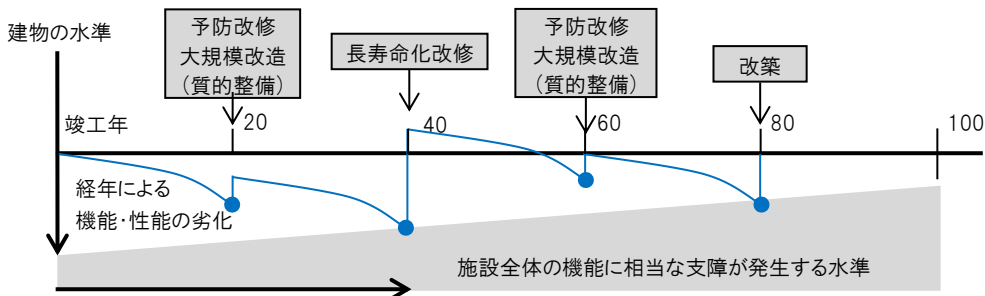
#### イ【1982～1984年に建設された学校施設】目標使用期間：60年程度(40年間予防改修を未実施の施設)



#### ウ【1988～1991年に建設された学校施設】目標使用期間：70年程度



#### エ【1992年以降に建設された学校施設】目標使用期間：80年程度



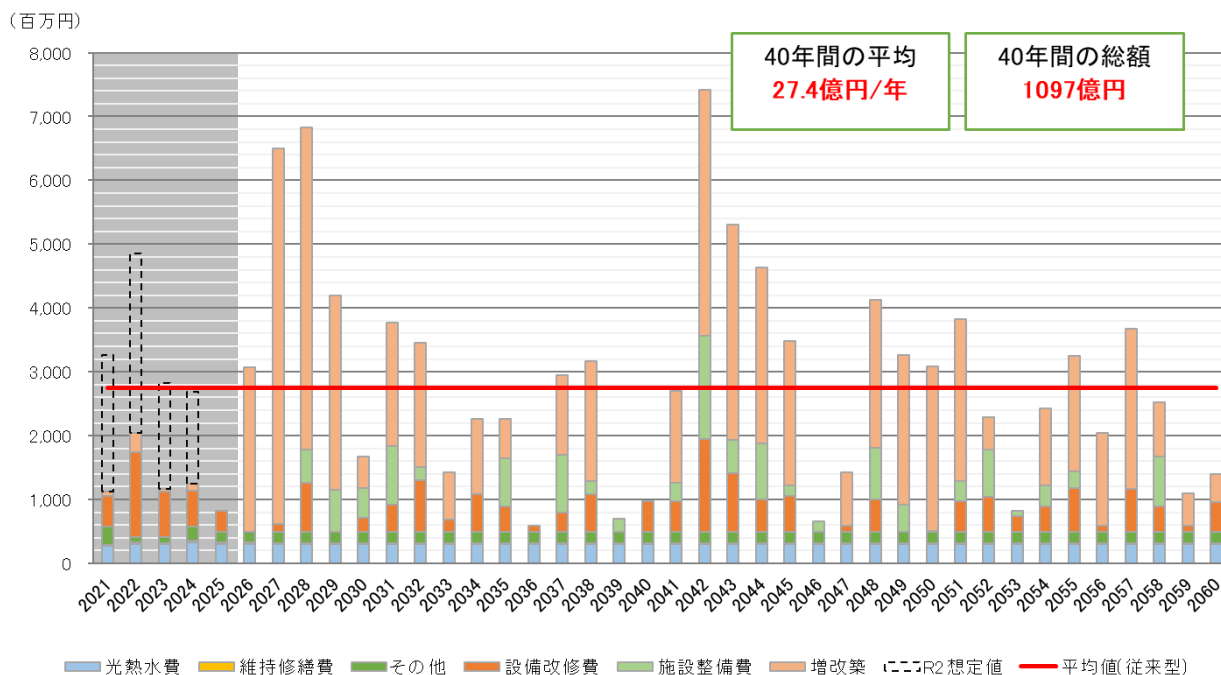
※大規模改造(質的整備)については、状況を鑑みて実施を検討する。

## ■長寿命化のコストの見通し

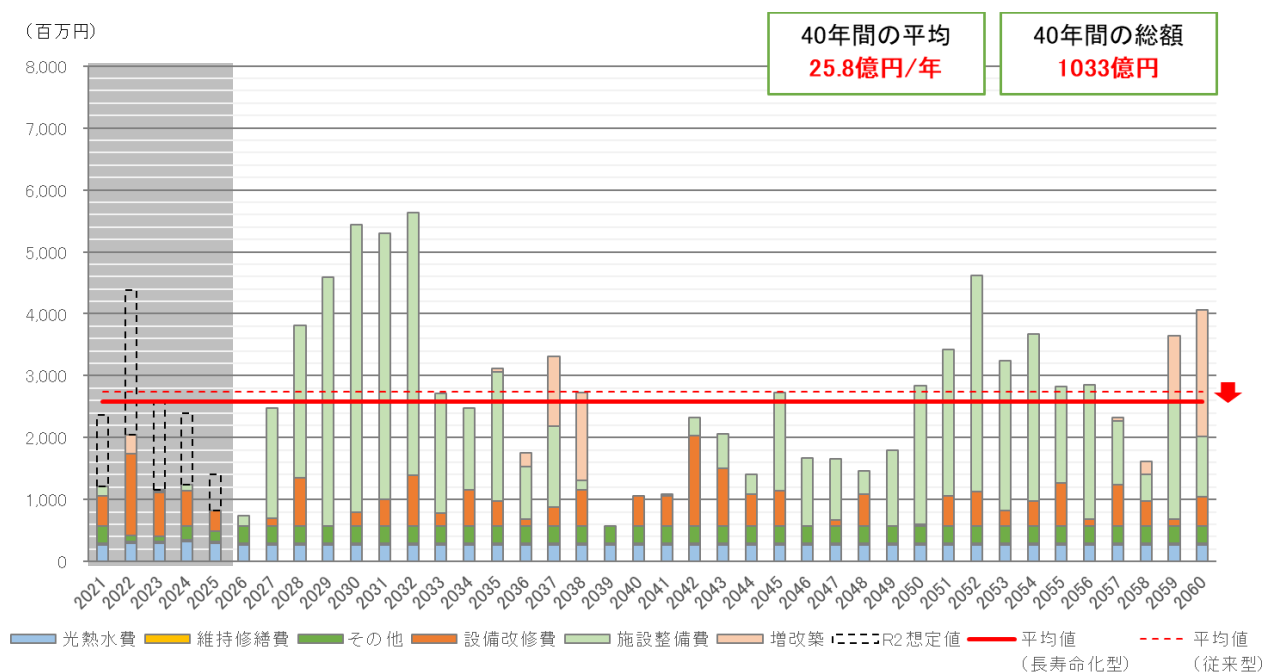
40年毎に建替えた従来方式の場合と適切に改修等を実施し55～80年間使用する長寿命化型方式の場合でのコストを比較検証します。

従来方式で試算した場合、40年間の総額は1,097億円、平均27.4億円/年となります。長寿命化型方式で試算した場合、40年間の総額は1,033億円、平均25.8億円/年となり、40年間で64億円、年間1.6億円のコスト削減効果が見込めます。また長寿命化型方式は施設整備水準の程度、技術革新等による省エネルギー化・省資源化の状況によってさらなるコスト削減も期待されます。

### ○従来方式（40年後に建替え）



### ○長寿命化型方式（55～80年後に建替え）



■ 事業スケジュール

基準年 2025年度

施設名	建物名	棟	区分	目標使用年数	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
					令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年
浦添小	校舎 (プール含む)	33	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧		予防改修	
	体育館	37	長寿命	エ	80年程度				体育館空調					大規模改造(質的)
仲西小	校舎	22,23,24,25	長寿命	ア	55年程度		応急修繕							改築
	体育館	28	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
神森小	校舎	14,15,16,18	長寿命	エ	80年程度									長寿命化改修
	校舎	21	長寿命	エ	80年程度									長寿命化改修
	体育館	19	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
浦城小	校舎	17,18,19	長寿命	エ	80年程度									
	体育館 (プール含む)	21	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
牧港小	校舎	17,18,19	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧			
	体育館	20	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
	プール										プール改築			
当山小	校舎	8	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 予防改修 大規模改造(質的)			
	体育館	15	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
	プール													
内間小	校舎	13	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 予防改修 大規模改造(質的)			
	体育館	14	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
	プール										プール改築			
港川小	校舎	13	長寿命	エ	80年程度									防音機能復旧
	体育館	15	長寿命	エ	80年程度		体育館空調							
宮城小	校舎	2,5,6	長寿命	イ	60年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	体育館	1	改築	改築			体育館空調							
	プール						プール改築							
沢岬小	校舎	2,8,9,10	長寿命	イ	60年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	体育館	1	長寿命	改築	改築		体育館空調							
	プール						プール改築							
前田小	校舎	1,6,7	長寿命	ウ	60~70年程度		応急修繕				防音機能復旧 長寿命化改修			
	校舎	8	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	体育館	3	長寿命	ウ	60~70年程度		体育館空調							
	プール						プール改築							
浦添中	校舎	38,39	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 予防改修 大規模改造(質的)			
	体育館 (プール含む)	40	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
仲西中	校舎	19,20,23,26,27	長寿命	ウ	60~70年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	校舎	31	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	体育館	28	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
	武道場 (プール含む)	25	長寿命	エ	80年程度									長寿命化改修
神森中	校舎	24,25	長寿命	エ	80年程度						防音機能復旧 予防改修 大規模改造(質的)			
	体育館	29	長寿命	エ	80年程度						予防改修 大規模改造(質的) 体育館空調			
	プール										プール改築			
港川中	校舎	2,9,10	長寿命	イ	60年程度						防音機能復旧 長寿命化改修			
	体育館	1	長寿命	イ	60年程度						長寿命化改修 体育館空調			
	プール										プール改築			
浦西中	校舎	1,8	長寿命	エ	80年程度							防音機能復旧 長寿命化改修		
	校舎	9	長寿命	エ	80年程度							防音機能復旧 長寿命化改修		
	体育館	3	長寿命	エ	80年程度						長寿命化改修 体育館空調			
	プール													プール改築

【留意事項】  
 ※防音機能復旧については、騒音基準が要件を満たせば活用できるが、満たさない場合は大規模改造(質的整備)等を活用します。  
 ※プール改築の事業時期については、施設築年数や老朽化状況を鑑みて示しているが、すぐに改築を意味するものではなく、「浦添市立学校のプール施設の在り方に関する基本方針」を踏まえて決定します。  
 ※体育館空調の整備時期については、臨時特例交付金(令和15年度まで)と予防改修等の時期を踏まえて設定しています。

## 第6章 長寿命化計画の継続的運用

### 施設カルテを活用した管理

学校施設の長寿命化や維持管理・更新を効率的かつ効果的に実施していくには、継続した施設の劣化状況の把握や改修等事業の進捗確認が必要になります。実施した改修等を一元管理することで、事業の進捗確認ができるとともに、今後の計画見直しにおける基礎データとして活用を図ります。

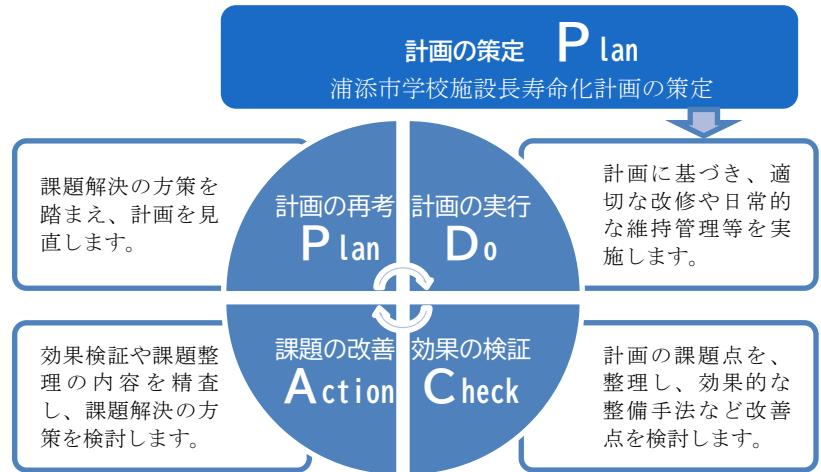
### 推進体制の整備

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行するとともに、教育環境の変化に伴う施設へのニーズは多様化していきます。今後は関係課や学校と連携・協力しながら、劣化状況を的確に把握することや、学習活動の適応状況等の実態を把握し評価することを定期的かつ継続的に行い、把握した情報や評価結果に基づき、より効果的な整備メニューの検討や保全計画の見直しを検討します。また、本計画に沿って確実に改修等を実施するため、関係部局との連携を強化し、協力体制の充実を図ります。

### フォローアップ等

継続的な施設整備を推進にあたっては、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルを確立し、老朽化やその他最新の状況を踏まえて5年を目安に計画の見直しを検討します。

#### ■効果検証の考え方



#### ①進捗確認（1年毎）

- ・事業進捗状況を確認し、予算要求に向けて実施計画の調整を行います。
- ・修繕履歴、工事履歴等の履歴を更新します。

#### ②計画見直し（概ね5年毎を目途）

- ・実態把握（劣化状況調査・健全性調査）、定期点検等の各種調査により施設カルテを更新します。
- ・各種単価や交付金割合の見直し、事業スケジュールの調整等を行い、LCC試算グラフを更新します。
- ・施設管理システムの履歴を施設カルテ・LCC試算グラフに反映します。
- ・各種法令及び上位関連計画における見直し事項を確認し、本計画の内容を見直します。
- ・その他長寿命化計画を実施する上で必要な見直しを行います。

#### ③今後の課題及び検討事項等

- ・今後の学級数の動向を踏まえて適正規模での学校施設の管理運営を推進します。
- ・財政負担の軽減を目的にPPP/PFI等の民間活力の導入を検討し、適正な学校施設の管理運営を行います。
- ・建設業界を取り巻く状況の変化は激しく建設コストの見通しは困難ですが、最新の建設単価等を参考にLCCの見直しを行います。
- ・修繕事業において国庫補助金を活用していますが、補助メニューの最新の動向を踏まえて事業の見直しを行います。

### 浦添市学校施設長寿命化計画（第1回改定）

〈概要版〉

〔発行年月〕 令和8（2026）年3月

〔発行〕 浦添市教育委員会

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1